

現地視察

森林・里山と林業の現状

日時：平成26年8月9日（土） 10:00～15:00

講師：近藤 稔（名古屋大学大学院生命農学研究科助教）

概況



現地視察（森林・里山と人間）

①豊田森林組合木材センター概要

豊田森林組合 林 富造 代表理事専務

7月23日の木材センター市売市況について、材の価格の厳しい現実を知ることとなりました。（長さ3m 16-20 径級スギ 6,000円～12,800円/？）。市場での材価格が生産コストに比べて低いため、間伐補助金があっても多くが採算割れの状況。生産コスト削減を図るため、高性能林業機械を導入して作業効率を上げることやフォレストワーカー制度により林業作業員の育成も図っている。

②高性能林業機械施業について

講師 名古屋大学大学院生命農学研究科助教授 近藤 稔

林業は他業種と比較しても労働災害発生率が高く危険な業種で、生産性の向上や労働安全のためにも高性能林業機械の導入が必要。生産性の高い北欧と比較すると日本は急峻な地形など作業環境が非常に厳しく、高性能機械の効率がなかなか上がらないのが現状で、日本に合った機械の開発も重要な課題である。日本の林業経営は、国や県の補助金なしでは成り立たない。高性能林業機械の導入についても、補

助金がなければ厳しいのが現状である。

③団地化プロジェクトについて

講師 豊田市産業部森林課 深見 隆之助 主任主査

豊田市は平成 17 年に近隣 6 町村を編入合併後、市域全体の 70% (63,000ha) を森林面積が占め、その約 55% を人工林が占める「森林都市」となった。豊田市の森づくりは、2000 年の東海豪雨による災害 (沢抜け・倒木) の危機感が原点にあり、森林を市民の重要な生活基盤と捉え公益的機能を高度に発揮することで豊かな水を育み、災害に強い森づくりの実現等促進することが必要である。

「豊田市森づくり条例」の制定、「豊田市 100 年の森づくり構想」の策定、その構想を具体化するため「豊田市森づくり基本計画」を策定して、最重要課題である「過密人工林を 20 年間で一層 (人工林の間伐促進) する」目標に向け諸施策を実施している。人工林の間伐を計画的かつ効率的に進める施策の一つが団地化促進プロジェクトであり、森づくり会議の設立支援や団地計画 (所有者の洗出し・境界画定・面積確定など) の策定支援を行っている。現在は、公益性確保 (健全な森林を拡大) を優先して団地化諸施策を進めており、将来的には、森林資源の有効活用による採算性のある森づくりの実現を目指している。

④高性能林業機械導入間伐地 現地視察 (豊田市加塩町)